

平成
29年度

日中活動支援部会 全国大会

(施設長等研究会 & 職員研修会)

開催要綱

テーマ

『生活介護』から『社会生活支援』へ Part.2

ー地域共生社会と日中活動支援のゆくえー

「生活介護」は、数ある障がい福祉サービスの中でも利用者の多いサービスとして、多くの人々の日中の生活を支えています。それも、単なる「居場所」に留まることなく、就労が困難な重度障がいのある方や個別の支援が必要な方が利用できるように、食事・排せつ等の日常生活の介護はもとより、外出活動や地域との交流等々、社会生活を送る上での力のエンパワメントや住民理解を図ることなどを目的とした多彩なメニューが展開されています。ただ、こうした重要な役割を担っている日中活動支援にも、課題があります。

まず、「社会生活支援」の可視化についてです。就労支援と異なり、事業の成果が工賃等の数字で表しにくいことなどの理由から生活介護等のサービスが「レクリエーションやゲームを行う事業」と誤解されている面があります。障害者総合支援法の法律名にも明示されているように、たとえ重い障がいがあっても、日常生活の介護だけでなく、その人らしい社会生活を送ることができるよう取り組んでいる「社会生活支援」の目的と内容の可視化が求められています。

次に、障がいのある方の意思決定における環境整備と支援の充実です。重度障がいのある方に対するサービス提供においては、支援者側の一方的な考えによるサービス提供にならないことが大切です。そのためには「意思決定支援」は不可欠であり、そこには、「どんなに障がいの重い方であっても意思がある」という理念が存在します。だからこそ、障がいのある方の意思表出に関する環境整備と支援の充実が急務となっています。

最後に、いわゆる「65歳問題」と共生型サービスです。利用者の高齢化進行による「65歳問題」への不安の声を解消すべく、新たに「共生型サービス」が発表されました。これは、介護保険優先の原則により65歳になると、これまで利用してきた障がい福祉サービス事業所とは別の介護保険事業所のサービスを利用しなければならないという問題に対し、新たに共生型サービスを位置付け、介護保険事業所の指定を受けやすくすることで、65歳以降も同じ事業所でサービスを利用できるように改正されるものです。期待もある反面、新たな問題が懸念されます。

日中活動支援部会では、今年度も「生活介護から社会生活支援」のテーマのもと、これらの課題について討議することにより、個々の利用者に応じたサービス提供と質の向上を目指して本研修会を開催いたします。

施設長・管理者・サービス管理責任者・支援職員の方々をはじめ、日中活動支援に関わる全ての皆様方に、ぜひともご参加いただきますようお願い申し上げます。

主 催 公益財団法人 日本知的障害者福祉協会 日中活動支援部会

開 催 日 平成29年 **12月12日(火)・13日(水)**

会 場 **TOC有明コンベンションホール** (東京都江東区有明3-5-7)
TEL 03-5500-3535

参加対象 日中活動支援事業所及び関連施設・事業所等の管理者、職員および関係者等

参加費 ・研修会費 11,000円(会員) 13,000円(非会員) ・懇親会費 8,500円(任意参加)

定 員 600名 (定員になり次第〆切)

12:30～13:00 受付

13:00～13:15 開会式

13:15～14:05 行政説明（50分）

【テーマ】『報酬改定と共生型サービス』（仮題）

福島 弘和 氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 課長補佐）

14:05～15:05 基調講演（60分）

【テーマ】『生活介護』から『社会生活支援』へ

岡田 喜篤 氏（北海道：社会福祉法人北海道療育園 理事長）

15:05～15:20 休憩

15:20～17:00 ディスカッション

【テーマ】『生活介護の本質的役割、そして共生型サービスへの期待と懸念』

発言者 田口 道治 氏

（岐阜県：社会福祉法人あゆみの家 総合施設長／
知的障害者の意思決定支援への取組に関する委員会 委員長）

村上 和子 氏

（大分県：社会福祉法人シンフォニー 理事長／日中活動支援部会 副部会長）

大垣 勲男 氏

（北海道：社会福祉法人伊達コスモス21 統括事業管理者／日中活動支援部会 委員）

進行 森下 浩明 氏

（神奈川県：社会福祉法人みなと舎 ゆう 施設長／日中活動支援部会 部会長）

17:00 終了

18:00～20:00 懇親会

第1分科会 『社会生活支援の実践～日々の活動における視点と工夫』

たとえ重い障がいがあっても、その人らしい社会生活を送ることができる支援の実現、いわゆる「社会生活支援」の実践が求められています。

現在、私たちが行っている支援は個々のニーズに基づき、様々な工夫の中で行われていますが、「社会生活支援」の実践とは新しい支援の方法ではなく、新しい支援の視点です。

その視点を職員間で標準化すること、即ち支援の目的や手順、効果などを「見える化」することにより、利用者一人ひとりがその人らしく、地域社会に関わりながら生活を送れる環境が整うのではないかと考えます。

このような考えが広がり、「生活介護」を日中の生活支援にとどめることなく、「社会生活支援」として位置付け、重い障がいがあっても、その人らしく地域社会で暮らしていくことのできる支援を各事業所で取り組むことができれば幸いです。

第1分科会では、日々の活動を「見える化」し、社会生活支援の実現を具体化することのできる実践力を身につけていくためのノウハウを蓄積して、提供するサービスに対する職員間の共通理解や人材育成が図れるようにすることを目指します。

9:00 ～ 9:20	日程・趣旨説明・登壇者紹介
9:20 ～ 9:50	発表① 中原恵理香 氏（熊本県：社会福祉法人明徳会 ゆめくらし事業所オレンジハウス サービス管理責任者）
9:50 ～ 10:20	発表② 國澤 宏登 氏（愛知県：社会福祉法人あさみどりの会 わらび福祉園 サービス管理責任者）
10:20 ～ 10:30	コメント・質疑応答
10:30 ～ 10:45	休憩
10:45 ～ 10:55	発表補足解説・意見交換ワーク説明
10:55 ～ 11:45	参加者意見交換（ペアワーク）
11:45 ～ 11:55	補足説明（発表者よりコメント）
11:55 ～ 12:00	まとめ、終了・解散

進行 知念 隆生 氏（沖縄県：西海岸中部地域総合支援センターたかしほ 管理者／日中活動支援部会 委員）

第2分科会 『意思決定支援の推進～どのように取り組むべきかを考える～』

意思決定支援では、意思が作られる過程（意思形成）と意思を伝えようとする過程（意思表出）における支援が大変重要です。そして、どんなに知的な障がいが重くても意思は存在し、言葉以外の表出であっても支援者が大切にくみ取ろうとする環境が不可欠であり、意思決定支援がベースにあってこそ本来の支援が成り立つものと思います。また、意思決定支援を充実させることは、まさしく「虐待防止」に直結し、特に知的な障がいのある方が「保護の客体」から「権利の主体」へと転換するための支援でもあります。今年度本協会が出版した「知的障害者の意思決定支援ガイドブック」や厚生労働省が示した「意思決定支援ガイドライン」等を読み解きながらこれからの意思決定支援の方向性等を議論し、支援の充実を推進したいと思います。

9:00 ～ 9:10	日程・趣旨説明・登壇者紹介
9:10 ～ 9:50	講演「意思決定支援とエンパワメント」 宮下 智 氏（長野県：社会福祉法人明星会 明星学園・第二明星学園 総園長）
9:50 ～ 10:10	発表① 古川 敬 氏（福島県：社会福祉法人育成会 いわき光成園 法人本部事務局長／知的障害者の意思決定支援への取組に関する委員会 委員）
10:10 ～ 10:30	発表② 倉場 政直 氏（北海道：社会福祉法人北広島福祉会 北広島デイセンター 所長）
10:30 ～ 10:45	休憩
10:45 ～ 11:50	討議
11:50 ～ 12:00	まとめ、終了・解散

進行 村田 修 氏（北海道：社会福祉法人静内ペテカリ 静内ペテカリの園 統括施設長／日中活動支援部会 委員）

第3分科会

超高齢化社会を目前に、近年知的障がい福祉現場においても利用者の高齢化が進み、介助スキルや医療との連携、建物、設備上の課題や制度上の問題等の議論が高まっています。一方、歳を重ねた利用者の多くは一般市民とは違う人生の軌跡を持ち、人生の閉じ方や見送られ（看取られ）方も違うのではないのでしょうか。介助や介護のスキルは先達である介護保険事業所から大いに学び取ったとしても、「高齢知的障がい者の支援～その人の人生への寄り添い」については、共生型サービスの施行を来年4月に控えた今だからこそ、知的障がい者支援の観点からまさにその人を丸ごと支える支援のあり方を切り拓いていかなければならないと考えます。

第3分科会では、日中活動支援を基軸としながらも、利用者の高齢化に対する具体的かつ人生モデルに根ざした講演と実践発表を行うとともに、現場に持ち帰ることができるよう実際の議論を深めます。

日程・趣旨説明等

講演「老いの省察—知的障害者支援の合意と約束—」

高山 和彦 氏（神奈川県：社会福祉法人同愛会 理事長）

發表・討議・質疑応答

発表① **福永 将志** 氏（兵庫県：社会福祉法人福成会 サポートセンターまつば サービス管理責任者）

発表② 若松 修一 氏（北海道：社会福祉法人朔風 共同生活援助事業所そら 施設長）

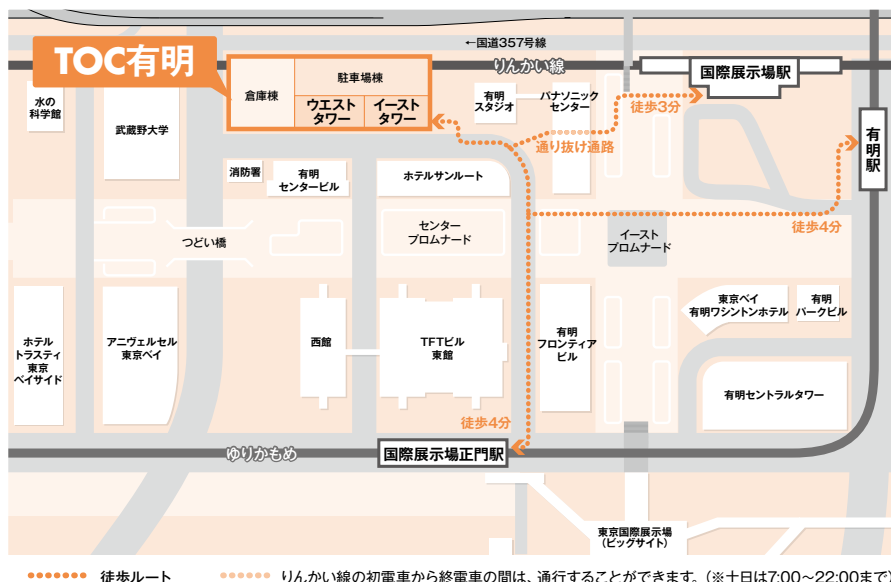
発表③ 佐久間 智 氏（千葉県：社会福祉法人野栄福祉会 しおさいホーム 施設長）

助言者 **高山 和彦** 氏（神奈川県：社会福祉法人同愛会 理事長）

討議コーディネーター **山形 朝雄** 氏（千葉県：社会福祉法人大成会 かしの木園 施設長／日中活動支援部会 委員）

まとめ、終了・解散

会場案内図・アクセス



りんかい線（最寄駅：国際展示場）

- ・大崎（JR）→13分→国際展示場
- ・新木場（JR・東京メトロ）→国際展示場

ゆりかもめ
(最寄駅：国際展示場正門)

- ・新橋（JR、東京メトロ、都営地下鉄）→ 22分 → 国際展示場正門
- ・豊洲（東京メトロ）→ 8分 → 国際展示場正門

空港リムジンバス
(東京ビッグサイト)

- ・羽田空港→約25分→東京ビッグサイト（下車徒歩5分）

羽田空港（モノレール）→りんかい線

- ・モノレール・天王洲アイル（徒歩5分）→りんかい線・天王洲アイル→5分→国際展示場

【大会内容に関するお問い合わせ先】

日本知的障害者福祉協会事務局 日中活動支援部会担当 (古屋 (誠)・山本・三浦)

〒105-0013 東京都港区浜松町2-7-19 KDX浜松町ビル6階

TEL 03-3438-0466 FAX 03-3431-1803

【お申込みに関するお問い合わせ先】

名鉄観光サービス株式会社 新霞が関支店（下枝・山邊）

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-3-2 新霞が関ビル ロビー階

TEL 03-3595-1121 FAX 03-3595-1119